

作品展示の部

10月31日から11月3日まで行われた「作品展示会」には、保育所園児や小中学生、文化サークル、一般の方々など町民の皆さんから寄せられた書道や写真、俳句、手芸など623点の多彩な作品が展示されました。

最終日の3日には、美国婦人会と保育所父母によるバザー、茶道銀杏の会のお茶会のほか、喫茶コーナーも催され、延べ569人が会場を訪れました。



▲土井知子さん(野塚町)の作品。茶褐色の斑点が特徴の積丹竹で作った電気スタンドと植木鉢カバー。



▲宮川昇次さん(美国町)の作品。色鉛筆で描かれた島武海岸。巧妙に描かれた作品に、写真と見間違える来場者もいました。



町文化祭

主催による平成24年度文化祭がですが写真で紹介します。



▲鈴木暖乃さん(美小3年)の作品。今年、町内で開催された子ども盆踊りをどんどんと紙粘土を使って再現したものです。

東海大学学生

美国・美しい海づくり協議会の

磯焼け対策を学ぶ

東海大学生物学部の学生を対象に、美国・美しい海づくり協議会(神哲治会長)の活動を紹介する講座や実習が10月16日、27日の2日間の日程で行われました。

これは、同協議会の活動を知ってもらい、実習に参加することで、藻場再生に必要な知識や技術の普及を図ることを目的に、全国漁業協同組合連合会と同協議会が共催で開催したものです。

16日、同大学で行われた講座には、学生など100人が参加し、神会長らが当町の磯焼けの現状、磯焼けが海に及ぼす影響やこれまでの取り組みの成果などを説明しました。

また、27日には美国漁港で藻場保全活動を体験する実習が開催され、同学生や教諭など30人が参加。はじめに、東しゃこたん漁協杉山賢組合長が、「美国・美しい海づくり協議会の取り組みを学んでいただき、何かアイ



▲神会長からコンブの種苗づくりを学ぶ学生

ディアがあれば遠慮なく言ってもらいたい。」と挨拶しました。

学生らは、コンブの母藻から発生させた遊走子(孢子)を顕微鏡で観察し、遊走子がコンブの表面から放出され、海中の岩などに着生し、発芽するまでのメカニズムを学んだほか、コンブの種苗作りを体験。20mのワイロープ6本に30センチ間隔で母藻を縛り付け、漁船に乗って厚苦の保全区域に種苗を投入しました。

参加した学生は、「今回の体験を通じて、藻場保全活動の重要

芸能発表の部

11月11日には、同センターにおいて「芸能発表会」も行われ、各地区の女性団体や幌武意太鼓、ニシン場音頭保存会など10団体53人が出演し、約180人の観客を楽しませました。

出演者は、舞踊やカラオケ、詩吟など日頃の活動の成果を披露。「うまいぞ。」「アンコール。」などの声援が送られ、演目が終わるたびに、大きな拍手が会場を包みました。



第42回 積丹

積丹町文化祭実行委員会（成田千七委員長）総合文化センターで開催されました。一部



長島 真太郎 君（美中3年） 後志中学校弁論大会 で2位1席

第60回後志中学校弁論大会が、11月6日に黒松内中学校で行われ、美国中学校3年生の長島真太郎君が2位1席と優秀な成績を収めました。

この大会には、後志管内の4地区の代表14人が出場。北後志地区の代表として出場した長島君は、「笑顔で」と題し、この夏、軟式野球の後志選抜チームの一員として戦った経験から、練習試合の失敗から自信を失っていた長島君が、友人の励ましの言葉で前向きになれ、笑顔で練習に取り組むことができるようになった体験を語り、「何気ない一言は、僕に自信と勇気を与えてくれた。何気ない一言は、相手を笑顔にさせる力がある。素敵なチームに入れてもらったことに感謝し、また、誇りに思う。」と発表。リラックスして発表できたという長島君は、「中学最後の弁論大会。良い成績を残せて、とてもうれしいです。」と大会での感想を語ってくれました。



▲漁船からから種苗を投入する様子

性が理解できた。今後の授業や研究で、この体験を生かせれば。」と感想を述べ、また、神会長は、「漁業者も保全活動を通じて多くのことを学んでいる。このような体験教室を通して、より多くの人に磯焼けの現状を知ってもらい、環境生態系保全への理解を深めてもらいたい。」と話していました。